

イエスは 主なり



日本クリスチャン・アシュラム連盟

# 日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創始されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 108



## 内住のキリストの恵み

ゼカリヤ4:6 ガラテヤ2:20

島津吉成

私が池の上教会に遣わされたのは、私がまだ東京聖書学院の4年生の9月でした。今は制度が変わりましたが、私が在学していた時は、4年生はインターン生として教会で実習をしながら卒論をまとめるということになっていました。

そのとき、私は母教会である上野教会で実習させていただきながら埼玉県のと市での開拓伝道を担当していました。卒業後はそこでの開拓伝道に携わる予定でした。

ところが、8月末、池の上教会でどうしても人が必要なので、9月から池の上教会に行くようにというお話。青天の霹靂でした。こうして私は池の上教会に導かれ、山根可弐先生と出会ったのです。それは、神様が私に与えてくださったすばらしい賜物でした。けれども、正直言って、初めからそのように受け止めることができたわけではありませんでした。

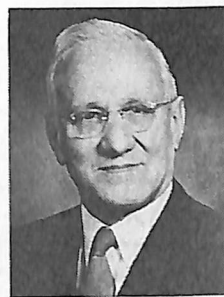
礼拝で私が説教させていただきますと、しばしば、山根先生からご注意をいただきました。それは、私がみことばを自分で良く消化して語るのではなく、聖書学院で習ったことをそのまま語るような説教だったからだと思います。「島津君。池の上教会の説教はそれでは困るんだ」とよくしかられました。役員の兄弟がそんな私をとりなしてくださったことも、今では懐かしい思い出です。

そのような中で、私はすっかり自信を失い、これで私は牧師としてやっていけるのだろうかと思々とした日々を過ごしました。そのとき、私の心にとても励ましとなったのは、ゼカリヤ4章6節のみことばでした。「権勢によらず、能力によらず、わが霊によるなり」。自分の力のなさを痛感していた私に、これは主が示してくださった光でした。

山根先生は、厳しくはありましたが、それ以上に私のことを非常にかわいがってくださいました。先生は、人の真相を直感的に見抜く力をお持ちだったと思います。このような問題で悶々としている私を見抜き、私の臆しやすい性格を見てとられたのだと思いますが、私によくこうおっしゃいました。「島津君。あんたがするんじゃないよ。あんたのうちにおられるイエス様がしてくださるんだ。」私は、何度この言葉を山根先生から聞かされたかわかりません。先生は、繰り返し繰り返し、ことある度にこう語ってください、内住のキリストの信仰を私に叩き込んでくださったのです。

私は山根先生と7年間一緒に伝道させていただきましたが、1989年9月19日、先生は89年の地上でのご生涯を走り抜いて、天に凱旋されました。先生が召天されて3日後に先生を追うようにして教会員が亡くなりました。また、すぐの聖日には結婚式も予定されていました。ですから、山根先生が召天されて直後の聖日は、山根先生の追悼礼拝の説教、午後は千葉県市川市で結婚式の司式、夜は神奈川県川崎市で前夜式の司式という、後にも先にもこんな一日はないのではないかと一日を過ごしました。私は、その中で、「島津君。あんたがするんじゃないよ。あんたのうちにおられるイエス様がしてくださるんだ」との声を聞きつつご用を務めさせていただいたのでした。自分を全く明け渡したときに、キリストが働いてくださる。山根先生が私に手渡してくださったこの恵みをさらに深め、そして次の方々にこの恵みを伝える者でありたい、それが私の願いです。

(池の上キリスト教会牧師、関東アシュラム委員)



スタンレー  
ジョーンズ  
コーナー

説教者・アシュラム創始者ジョーンズの生涯  
(?) J・マシューズ

それから、一九七一年十二月七日の夜、稲妻のような突然の麻痺が彼を打ち倒しました。脳幹部の卒中が彼の左の腕と脚と同時に彼の顔の右側を動かさないようにしました。彼の視力も冒されました。数千の人々をキリストの福音で感動させたあの声はほとんど沈黙させられ、不明瞭となり、もぐもぐ言うだけに弱められてしまいました。彼の意識ははつきりとしていましたが、彼の生涯の熱情イエス・キリストを人に知らせ、愛させる熱情は少なくともしばらく停止しました。

病気はオクラハマ市にあるロマ・カトリック退修の家で、彼が一種の霊的伝道集会であるアシュラムを指導中に起こりました。彼が倒れているのが発見されるまでに数時間たっていましたが、その市にあるパプテス派の病院で、最善の手当を受けました。二週間の後に、彼はボストンに移

されました。彼の娘の傍らにいて、そこにある数ヶ所の病院で次々に治療を受けるためでした。これらの病院は、続く五ヶ月間の彼の家でした。その期間に彼は八十八才の誕生日を迎えました。

ボストンに着くや否や彼はもう一つの本、彼の二十九冊目の本を書きたいと言ふ願いを述べました。彼はその本を「神の然り」と呼ぶよう提案しました。永年、彼は コリント一章十九節の聖句に基づいて説教してきました。「神の『しかり』がイエスにて(終に)実現した」。生命が「否」を言った時に、神は「しかり」と言われたのです。

彼は書けなかったので、彼の本を口述するように、カセット・テープレコーダーを入手しました。これに彼にとり一種の自己療法であることが分かりました。初め、彼が録音を再生した時、彼は自分の言ったことが分かりませんでした。「あれは誰か」と彼は言ったものです。「あれはあなたです」が答えでした。数ヶ月に及ぶ粘り強い努力によつて、彼はその本の本文を録音したばかりか、次第に自分の声を正常に近いところまでとり戻しました。彼は自分の治療を促進したのです。

彼の麻痺した腕と脚に就いては、別の話でした。それらは色々な処置

にほとんど反応しませんでした。ついに医師たちは、彼はもう歩けないだろうという結論に達しました。全世界が文字通り巡回説教区であった人にとり、これは誠にわびしい判断でした。彼にはそれを受け入れる心の準備がありませんでした。入院生活五ヶ月の後、ジョーンズ博士十数千人にはスタンレー兄弟は自分が医学的囚人であるかのように感じました。そこで彼はインドに帰ろうと申し出ました。そこは、彼が最初熱心な宣教師としてラクナウに到着した一九〇八年以後彼の「基地」でありました。そこで彼は牧師としてまた地区の監督者として奉仕していま

した。そこで当時のどちらか言えば内容の乏しい、ありきたりのキリスト教を文字通り一驚させた、「インド途上のキリスト」を執筆しました。そこで彼はガンジー、ネルー等国家的指導者のすべてと英国官界の人々をも知るに至りました。そこで彼は霊的退修会である第一回クリスチャン・アシュラムをサトタル(七ツの湖)で始めました。英国人が国内に彼を居らせなかった第二次世界大戦中を除いて、彼は毎年幾月もインドに帰っていました。それは隠退後でさえもそうでした。だから彼は不自由になつても、尚インドに行かねばならない!

(白川訳)

★「いかに祈るか」を読んで

原 朗

S・ジョーンズ博士は私にとり忘れ難い人です。私は博士の講演を聞いて決心し、四十五年前に教会に連なりました。最近私は、もっと密室の祈りと聖書味読の必要性を感じていました。

主はあなたを通し、私のためによいテキストをお送り下さいました。ジョーンズ博士の英文を初めて読み、美しい文章であることを発見しました。且て読もうとした本の日本語訳と講演の時の通訳の日本語が難解であったので、永年誤解していたことを知りました。「いかに祈るか」は良い訳で、読み易いです。少しずつ音読し、祈りの糧にしたいと考えています。「神のなされることは時にかなって美しい。」

◆最新刊・好評◆

今世紀最大の世界的宣教師  
スタンレー・ジョーンズ博士著  
白川鄭二・飯島庸江共訳

いかに祈るか

祈りの人スタンレーが祈りとは何か、祈りの段階と方法と実例を親切に教えている好著

新書判七〇頁

定価六〇〇円 一ノ九〇円

発行所 日本クリスチャン・アシュラム連盟

◆教会その他の祈禱会で用ゆるのに最適の好テキスト

★第二回伊那アシラム報告

去る十月十日、一日アシラムが長野県伊那聖書教会で初めて開かれた。当日は四頁の予定表が配られ、すべてが参加者の一致協力により進められた。主題は「思い煩うな」。福音の時は城村牧師が担当、他は石神がご指導申しあげた。参加者の分ち合い、証しは初めてのよい経験であった。(石神)



第1回伊那アシラム参加者  
1996.10.10

★第10回バルナバ・アシラム予告★

- ▽日時 一九九七年五月四日(日)ー六日(火)
- ▽場所 日野市 ラサール研修所
- ▽特別招待者 有賀喜一師
- ▽定員 六〇名
- ▽会費 一八、〇〇〇円(申込の時に)

▽申込先 〒三九九

長野県岡谷市長地小萩 石神勇宛  
☎〇二六六一二八一〇八八

★第35回関東アシラム予告★

一九九七年九月二十一日ー二十四日  
山崎パン箱根山荘にて開催の予定

★第10回国際アシラムの予告★

第十回国際アシラムは三年後の西暦二〇〇〇年に、インドのサトタルにて開催の予定。これはジョーンズ師がサトタルで最初のアシラムを開催してから七〇年の記念集会。

◆消息

○ウイリアム・バーグ師 国際アシラム委員、国際アシラムのため

永年尽くされた。昨年十一月米国ミネソタで永眠。

○落田健二師 アパ・ルーム日本語版の創刊者。十年前から病気で静養中のところ、本年一月清瀬神愛病院にて老衰により永眠、行年九十六歳。

◆アシラムに出席して◆

▼西宮市上甲東園 南嶋 一郎

皆様の祈りの結集により、この度のアシラムに於て、豊かな霊の導きを賜われました。今後の信仰生活に活かしたく、希望を与えられ、喜びまた感謝しています。

▼大阪市住吉区 田中 逸衛

清水先生からアシラムへのお誘いの電話を頂き、久しぶりに参加いたしました。出席者一同み霊に導かれ、また祈りの細胞に於て、お互いの祈りに与かり、主にあつて歩む方々と親しく交わる時をもつ恵みを味わいました。

夜明け前の琵琶湖の大自然の美しい景観に、神さまの御恵みを今更のように感じ、新しい力を頂きましたことを深く感謝しています。

▼吹田市竹見台 池田美恵子

よい準備をして下さった方々に心から感謝いたします。今後はお話し下さる先生方の中に、若いお方が二・三人入って頂ければ、尚よいのではないのでしょうか。

宿泊設備、食事も健康的でした。それに小人数でしたから、全体の交わりのために自己紹介の時があつても良かったかと思えます。

▼京都市山科区 乾 達彦

領主。アシラムのことは京都ルーテル教会の内海初子姉から伺っていましたが(榎本師のアシラム)参加させて頂くのは初めてで、大きな恵みを受けました。「祈りの細胞」で自分の問題を率直に話し合い、友に祈って頂くことが、大きな力と慰めになりました。

▼東大阪市東鴻池 河 玉嬢

アシラムは初めてでした。参加してとても恵みを受けました。今まで出会ったこともない、主にある兄弟姉妹方と共に祈り、語り合い、み言葉を分かち合った、その時間は、イエス様が導いて下さったと信じて心から感謝しております。特に充滿の間は本当に豊かな恵みの時でした。来年も参加できれば幸いです。

海老沢宣道の新書  
神に就いての黙想

B6判 150頁、価1,300円 ¥240円

神との生きた対話・交わりを願いつつ綴られた信仰の随想。老熟した著者が現代の教会に問題提起しつつ語りかけるメッセージ。

発売所 キリスト新聞社  
取次 日本クリスチャン・アシラム連盟

アシラム生活最良の友  
アパ・ルーム

海老沢 宣道 編集

(年6回刊行の日々の糧)

国際的、超教派的、霊的な読物  
価300円、¥90円、年2,340円(¥とも)

申込先 ☎256 小田原市国府津3-11  
振替口座 00110-7-193834 アパ・ルーム  
電話番号 0465-48-2010

日本語版は創刊以来46年続行中

## 「スタンレーとアパ・ルーム」 ゆかりの地を訪ねて(4)

海老澤宣道

グレンデイルのフォレストロイン記念公園内の墓苑本館の特別記念室の壁にはダビンチの傑作、「最後の晩餐」がステンドグラスによって再生され、毎日音楽つきの解説がある。庭内にはミケランゼロ原作のピエタやダビデ像、デンマークの彫刻家トルワルセンの傑作のキリスト像(何れも複製などがある他、ロマンチックな会堂が三つあり、多くの若者が結婚式を挙げている。最も印象的なのは、受難と復活の特別ホールで、ポランドの大ピアノリストのパレフスキーによって靈感を受けた「受難の絵巻」はジャン・ステイカの傑作で、横一九五フィート、縦四十五フィートの世界最大の絵画である。

との会食であった。会員中十名以上のアパ・ルーム読者を持つロス西教会の久山牧師も出席された。

第八日、五月二十日(月)、伊藤秀美牧師、ロンゲ・博子姉の厚意ある案内で、第一希望のクレアモント神学校に車を飛ばす。K・ライス教授が校内の説明をしてくれたが、当日不在の副学長ロジャース博士がスタンレー・ジョーンズ伝道学講座を担当している他に、本校の特色はイスラエルの死海写本の複写を全部揃えて展示し、研究を進めていることである。

次に、在留邦人の養護老人ホーム(Keiron)に入荘しているアパ・ルーム誌の愛読者二名を訪問、ペッドを囲み、挨拶と讃美と祈りをして別れた。ここで伊藤牧師は月二回集會を守つて居られるとのことである。

この日最後に、一七七一年以来この地方に最初に布教し、墓地を設けたスペインの聖ガブリエル宣教団を見学した。中庭の中央に大きなキリストの磔刑の十字架が建てられているが、六千人ほどのインディアンが埋葬された記念であるという。境内にはぶどうの樹が生い繁り、聖堂は十八世紀末に十三年かけて建てられた古風なもの。その至聖所には三百年を経た古い聖画「悲しみの聖母」が飾られている。少数の宣教師がはるばるサンディエゴから旅をして、この地に伝道しようとした時、敵意をもったインディアンが司祭たちを追い払おうとして来たので、司祭たちは、この聖母像を土の上に広げて彼らに見せたところ、インディアンたちは、その美しさに打たれて彼らに友情を示し、それ以来この宣教団と呼ばれるようになったという。

第九日、五月二十一日(火)、早朝UA便でロスをたち、六時間余でハワイのホノルルに到着、旅行社の車で市内観光のあと、日本の城の形で有名なマキキ教会に黒田牧師を訪ね、夕食は中華料理店キリンで、在留日本人信徒との親交会を催した。ヌアヌ組合教会の古谷牧師(読者五名)、オアフ・メソジスト教会の藤本牧師(読者六名)も出席され、アパ・ルーム日語版のお陰で毎日の信仰生活が力づけられ、感謝であるとの謝辞や日本人牧師の勧めが入っているのも懐かしくて良いと感想を伺った。

第十日、五月二十二日(水)は終日自由行動。ハワイ島まで飛ぶ人たち、潜水船で南海の底を観光する人、大学の植物園に行く人、日本人教会を訪ねる人たちに分かれて一日を終了。

第十一日、五月二十三日(木)早朝ホノルルからUA機で八時間、翌二十四日、成田空港に無事帰着、感謝をもって解散、各自の家路についた。

以上のように短期間に米国各地の教会や神学校を訪ね、有力な牧師や教授方との交わりを深め、主にある国際親善を強めたことは感謝の至りである。

一九九六年七月

東京都目黒区中央町1-21-10  
日本クリスチャン・アシュラム連盟  
碑文谷教会寄付  
理事長 海老沢 宣道  
編集人 白川 二郎  
発行人 大石 嗣郎  
定価 一部60円 千80円